
何と言う。何を言う。

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何と言う。何を言う。

【Nコード】

N1617Z

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

2000字設定。最近、2000字に凝つとるライス35歳。

雷が鳴り響いた。

大岩信一郎は、寒さに震え、ペンを走らせた。布団を被り、机に向かつてる。＼切が近いのである。信一郎は小説家だ。ギャグ小説を中心に書いてる新人作家だ。

信一郎は急に担々麺が食べたくなった。ラーメン屋に行きたいが、金がない。そうだ。コンビ二に担々麺のカップ麺が売ってたぞ。信一郎は、ジャンパーを着て傘をさし、雨の中を歩いた。

その時分、信一郎の妻、華子は、パイナップル市でダンスの練習をしていた。近々、市内で、ミュージカル「花復活」が公演される予定。華子はそれに出演するのだ。女やくざ麻呂子役である。

華子は、練習が終わり、コーヒーを喫茶店で飲んでいた。言わば、単身赴任である。信一郎にメールしたら、信一郎が、ひょうきんな写メを送信し、華子を励ました。

喫茶店の前では、酔っぱらいがげろげろ吐いている。向かいが居酒屋。酔っぱらいはついにアスファルトに寝転んでしまった。冬なので危険である。酔っぱらいは身体がカッカしてるゆえ、まさか自分が凍死する予定だとは気づいていない。悲しいことだ。これも不況の影響か、陰鬱な風景である。

信一郎は、頭を悩ませていた。文芸評論家の拓村元助が雑誌で、信一郎の新作をこき下ろしていたのだ。

元助は、才能ある作家に嫉妬するとすぐに攻撃する癖があった。元助は、若い頃、小説家になりたかったが挫折したのだ。まあとはいつても本当の悩みはそんなことじゃない。ちんかすなんか無視すればいい。

本当の悩みは、非正規雇用問題である。信一郎の親友、七村啓二が、十年以上アルバイトをしているのだ。だから、結婚ができない。信一郎は啓二と一緒に、会社に団交に行ったこともあった。しかし、

会社は無理ですを繰り返すばかり。信一郎は頭を抱えていた。

とはいえ、それもそれほどの悩みではない。あくまで他人事である。まあ本当の本当の悩みについては、いずれ話すでしょう。今は話せない。勘弁してくれ。

啓二のことを思うと、世の中を本当によくしたい。作者は本当にそう思う。非正規労働者は現在1700万人いる。1985年の段階だとわずかに600万人だった。今は三人に一人が非正規である。これはウソじゃない。現実だ。恐ろしいが現実だ。

日本を本当によくしたい。金持ちだけが幸せなんて間違っていると思う。そんな世の中はよくない。いけない、許されないことだ。

信一郎は、飛び降り自殺をしたかった。あまりに仕事がつらい。しんどい。

テレビコマーシャルでやってた原由子の歌がすごくよかったと信一郎は思った。癒されると思った。

また生きようと。

そういうことの繰り返しだ。

人生というのはそういうものだろう。山あり谷ありだ。

信一郎は、ちょっと悪いことをしてしまった。華子が留守なのをいいことに、店で松坂牛のサーロインステーキを食べてしまったのである。「ああ。オレって最低な旦那だ。悲しい……」

しかし、とろけるような肉は本当に旨かった。また明日もがんばろうという気分になった。

しかし、悪いことというのは本当にやってはいけない。なんと、その日、華子の所属する劇団から電話があつた。「ええええええ。華子がトラックにはねられた???」

信一郎は、やばい早く病院に行かなくちゃ、と焦ったが、編集者が腕をつかむ。「離してくれよ。妻がやばいんだよ」「先生。止めはしません。×切に間に合えばいいのです。ノーパソを持っていってください。そして、編集部送信してください。さあ。行きなさい」「う、うん。わかった」

信一郎は、新幹線に飛び乗った。

「ああ。華子。絶対無事でいろよ。これからダンサーとして活躍しなきゃいけないのに、死んだら終わりだよ」

信一郎は、手を組んで神に祈った。

雷が鳴り響いた。

テレビでバーガーのことがやっていた。おしゃれなバーガー・シヨップの全品から売上ベスト10をノーマスで当てると百万円、全部当てると帰られない食いつづけるという、そういう番組だ。百年後の読者に説明するとね。今の読者は知ってると思うが。とにかく、旨そう。よだれが出る信一郎。

手術室の前のソファで、信一郎は、ケータイでそれを観ていた。

「ああ。バーガー旨そうだし、華子が心配だし、なんか複雑だな。やばいぞ。ヘンな汗出てきた」

なんとということだろう。バーグの魅惑。華子の容態。

複雑なオーラを信一郎は出し始めた。危機とグルメが融合してきたのだ。

「ううう。華子。うううう。バーガー」

思うに……犬というのはある意味ラクな立場ではないか。芸人、サバンナの高橋は、自分でバーガーが選べなかった。俳優の生田がスパム・バーガーかなと言ったら、それを選んだ。一見、情けない感じもするが、外れたとしても、責任逃れできる。とはいえ、犬にならなければ責任を負わないといけないとはいえ、ある種、自分勝手に行けるから、それもラクだろ。葛藤創造法がやはり一番難しい。しかし一番面白い。

「うーん。うーん」

雷が鳴り響いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1617z/>

何と言う。何を言う。

2011年12月5日20時53分発行